

NEWS LETTER

2021.1.28 Vol.18

発行：基幹型包括支援センター
NPOまち育てセンターりた、岡崎市長寿課
20の地域包括支援センター

～地域包括ケアと地域共生社会の実現に向けた学びを共有するゼミ～
会議運営支援モデルの取り組みを紹介します。

元気で自分らしい生活が送れる地域を目指して
～上地学区福祉作業部会（協議体）の進捗報告～
by ふじ包括（上地学区）

【上地作業部会の取り組みテーマと成果★・課題●】

- ①災害時の対応
 - ★ 緊急キット作成し救急対応時活用できた事例有。
 - 安否確認のハンカチ全戸配布は保留。地区を絞って検証。
- ②活動の見える化
 - ★ 困り事事例一覧作成。学福ホームページにアップ。
 - 高齢者はなかなか見れないため周知方法を今後検討。
- ③お助け隊
 - ★ 2つの地区で実施している。
 - もっと広げたい。学区として組織化をしたい。
- ④居場所づくり
 - ★ 老人クラブ活動が中止になる中、代替でごまんどく体操立ち上げ。
 - 身近な居場所の担い手、場所の確保が必要。
- ⑤独居高齢者の把握
 - ★ アパートなどの把握が難しい。
 - スーパーが遠く、バス路線も限られている。
- ⑥交通弱者
 - ★ 講演会を行った際に、普段出てこない人も参加。
 - 関わり自体を嫌がる人もいる。
- ⑦集合住宅との関り
 - ★ 高齢者が子ども会の役をしている地区があり多世代のつながりに。
 - 学区全体として多世代交流を推進したい。

【包括ゼミでのアドバイス】

- ・役割分担は？→協議体はアイデア出しの場。※右のイメージ参照
- ・年度末で課題の整理ができると良い。そこから今後の方針を定めていければ。
- ・成果も確認し、できたことをPRする場があると良い。上地通信や、よりなん通信、りたらしい等で検討。

今回のキモ！

※協議体のイメージ

協議体

- ・話し合う
- ・課題を共有する
- ・仕掛けを考える



実行できる人・地
縁組織へ提案

・上地作業部会で出た話は、学福・民協・老人クラブ・防犯防災協会に所属しているメンバーがそれぞれ打診

今回のキモ！

健幸すごろくdeウォーキングin羽根&城南

by スクエア包括（羽根・城南学区）

- 「あの包括の企画いいなあ」と思ったら直接聞きに行きにいける包括同士の『繋がり』。
- 企画を推進し、地域に協力を求めていく『実行力』と、今まで培ってきた地域との『繋がり』をいかした掲示板の設置。

★ 繋がり+実行力
= 楽しい地域づくり

掲示板

すごろくカード



【きっかけ】

・コロナ禍で人を集まるイベントが軒並み中止に。閉じこもりがちになって身体機能が低下してしまわないか心配……。そんな時南部包括の『お散歩ビンゴ』を知り、**衝撃を受ける!**→すぐに南部包括に話を聞きに。→担当圏域で実施！

【目的】

- 1) 高齢者が楽しみながら外に出かけ**健康づくり**に取り組める
- 2) **子供たちが学区を回り、楽しみながらゲームに参加**できる
- 3) 一人あるいは少人数で参加する事で感染拡大が予防できる

【内容】

学区の諸団体や有志の方に協力求め、掲示板設置（羽根学区33カ所・城南学区28カ所）。すごろくカードをもらい、掲示板目指してウォーキング。掲示板のさいころの目だけすごろく進めていく。ゴールしたら参加賞ゲット！

【結果】

参加賞引き換えした人数は2学区計126名。「次回参加したいですか？」のアンケートに答えた全員が『はい』と回答しており大好評。

【りたからのアドバイス】習慣化・定常化を目指すすと良い。→来年度も春・秋実施予定。坂が多い地区の参加が少なかったため、掲示を増やすことも検討中。

編集後記：統計によると、高齢者の体力・運動能力はほとんどの項目が上昇傾向にあります。介護予防の意識が徐々に浸透しているのかと思います。ウォーキングや体操だけでなく、様々な地域活動をして人と人とのつながりを大事にしている方は、体が元気なのはもとより、話をした際に笑顔が多いと感じます。包括ゼミでは、そんな笑顔が増えるようにどのセンターも、地域の方々と一緒に頑張っているのをひしひしと感じます。コロナの影響で人が集まる事が難しくなっていますが、感染に配慮し、屋外での新しい活動を始めるなど、できる事を頑張りながら、つながりを大事に持ち続けた先には『新しい生活様式』から『新しく楽しい、笑顔あふれる生活様式』が待っている、そう思ってこれからも頑張っていきたいです。